

地域と協同の 170号 研究センターNEWS

2018年10月25日発行

【巻頭言】

50周年後のゆたか福祉会の展望を探る

社会福祉法人ゆたか福祉会 理事長 鈴木清覚

障害者のみなさんが働く場もなく行き場のなかった50年前、障害者と家族の切実な「働く場」がほしいとの願いに応え、なんら公的制度もない時代に、全国で最初の無認可「共同作業所」として、ゆたか共同作業所が設立されて以来、いよいよ来年50周年の節目を迎えます。

今後のゆたか福祉会に思いをはせますと、ぜひ歴史の中で築き上げ検証されてきた「成果や理念の継承」を願わずにはいられません。

また、ゆたか福祉会は、第6期の「長期計画」の策定をめざし、今後に向ける実践と事業をすすめていくための検討を開始しています。

前提となる大きな課題は、利用されている障害者と家族は、日本の社会が直面している課題と同じように、高齢化の波が着実に進行していることです。さらに、支援と事業を担い、歴史をつくってきた職員の世代交代や継承の課題、不足している福祉人材の確保等が最重要課題となっています。

これまでの障害者施策・制度の歴史を検討しますと、大きくは次の3つのモメント（力学）によって動いてきたように、整理できるのではないかと考えます。

第1は、時々の政権や自治体の政策スタンスと具体化によって大きな変化がもたらされてきました。第2は、国民の運動と現場の実践が第1のモメントとの対抗と拮抗の中で、政策や制度が修正され変更され具体化していくこととなります。第3は国連をはじめとした国際動向の中で、その力が大きく形成されていくこととなります。

こうした歴史の視点で、ゆたか福祉会の50周年後の在り方を考えますと、第1のモメントは時々の経済や政治状況はなかなか予測困難ですが、第2のモメントは我々が追求してきた理念に示されていると考えています。それは、「利用者の命と願い」に応えること、地域や社会を「民主的で人権が尊重されるもの」に働きかけていくこと、この視点が堅持されていくことだと思えます。

第3のモメントである国際的視点では、この間の「障害者権利条約」や2015年に国連で決定された「SDGs-持続可能な開発目標-」などに学び深めて、我々の計画に具体化することであると思えます。

ゆたか福祉会は、これまでも多くの困難や課題に直面しました。それらを乗り越えてきたのは、利用者・家族のみなさんとともに歩むこと、地域や関係団体のみなさんとの協同を大切にすることでした。こうしたスタンスを堅持し新しい歴史に挑戦し続けていきたいと思っています。

(すずき・せいかく) ※社会福祉法人ゆたか福祉会：名古屋市南区

CONTENTS

- 【巻頭言】50周年後のゆたか福祉会の展望を探る
(福) ゆたか福祉会 理事長 鈴木清覚
- ▶三重地域懇談世話人会でみえ医療福祉生活協同組合育生西支部たまり場「陽だまり」を訪問！
- ▶労働組合から見た職員の状況（研究フォーラム職員の仕事・2018年度中間の報告）
- ▶研究センター環境フォーラム報告
- ▶情報クリップ
- ▶企画案内「2018ぎふ平和のつどい」「古代尾張氏とヤマト政権」

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 8

- 地域と協同の研究センター 10月の活動
- 3・水 「市民の講座」運営委員会
 - 4・木 アジアの平和、食と文化フェア拡大実行委員会
 - 5・金 第1回「市民が協働を学ぶ講座」
 - 6・土 第4回共同購入事業マイスターコース
 - 10・水 研究フォーラム環境世話人会
 - 11・木 三河地域懇談会世話人会、研究員会義
 - 12・金 第5回「協同の未来塾」
 - 15・月 岐阜地域懇談会
 - 17・水 尾張地域懇談会「拡大」世話人会
 - 19・金 第5回常任理事会
 - 22・月 研究フォーラム食と農世話人会
 - 23・火 研究フォーラム地域福祉世話人会
 - 24・水 暮らしを語りあう会
 - 26・金 第2回組合員理事ゼミナール
 - 27・土 第74回「生協の（未来の）あり方研究会」
 - 31・水 NEWS編集委員会

三重地域懇談世話人会でみえ医療福祉生活協同組合育生西支部たまり場「陽だまり」を訪問！ (報告：地域と協同の研究センター事務局 大島三津夫)

9月13日、みえ医療福祉生活協同組合育生西支部のたまり場「陽だまり」で月1回行われている「陽だまりマルシェ」を三重地域懇談会の世話人13人で訪問しました。みえ医療福祉生協組合員活動部大田卓さんと、理事の福井きわ子さんにご紹介いただいた概要をご紹介します。

みえ医療福祉生協の紹介

みえ医療福祉生協は医療と介護の生協です。組合員活動では地域の人たちが生活と健康を豊かにと活動に取り組んでいます。育生西支部のたまり場「陽だまり」は津生協病院の南約2キロの所にあります。

津の医療生協は、1955年に柳山診療所から始まりました。そして、1960年に津医療生協が誕生しました。2011年4月に、三重県にある5つの医療生協が合併し、みえ医療福祉生協が誕生しました。班という、購買生協では共同購入ですが、医療福祉生協では健康づくりや支え合いの活動の場です。最近では組合員同士の有償ボランティア活動も立ち上がりつつあります。機関紙は、組合員ボランティアがご近所の組合員宅に手配りし、見守りにもつながっています。

みえ医療福祉生協の津生協病院と附属診療所では、「無料低額診療事業」も取り組んでいます。経済的に厳しくなると、具合が悪くても受診を控え、やっとの思いで受診した時には手遅れということもあります。経済的な理由で適切な医療を受ける機会が制限されることのないよう、自己負担の減免を行ったりしています。

「陽だまり」の紹介



いただいた食事

育生西支部の“気軽によって来られる場所が欲しい”という組合員の思いから「陽だまり」は始まりました。2008年頃から相

談し、場所も皆で探してきました。2012年の暮れにこの場所が見つかり、2013年の年が明け、掃除と模様替えを行い、2013年の2月20日にオープンし5年になります。

毎週水曜日の午前中は、映画を見たり、パッチワークや脳トレーニング、子育て支援の取り組み

などやっています。第2木曜日はこの「陽だまりマルシェ」です。月1回のお食事会で、手づくり料理も持ち寄って皆で食べています。手芸品や不用品バザーも行っています。職員も研修で参加したりしています。

月一回の無料塾「子どもほっとハウス」は昨日開催しました。課題のある子どもを対象に、職員も協力して夕方の4時から5時30分くらいまで行っています。勉強を教えるより、受け止めることを大切にしています。お母さん達が働いており、夕食も遅いので、昨日は鬼饅頭とバナナケーキをおやつに出しました。お腹の足しになるものと考え用意しています。今は人手が足りないので月1回しかできませんが、人手が増えれば回数も増やしていきたいと思います。

夏はスイカやブドウの差し入れもあります。育生西支部はいろいろな人の好意で成り立っています。「陽だまり」の家賃は生協からの支部活動費から充てますが、その他の活動費は自分達で工面しています。

「陽だまり」があつてよかったことは、人と人のつながりができ、健康寿命を延ばすことができることです。いろいろな人のいろいろな想いを聞くことができ、暮らしの様子が見えてきて、生協のやるべきことが見えてきます。

生協の為ではなく、自分たちや地域みんなの暮らしの為に活動することにこだわっています。自分たち組合員が自分たちの暮らしや健康の為にやるものだからこそ、地域の組合員の声にしっかりと耳を傾け、地域の声や自分たちの想いを大事にしながら取り組んでいます。



参加者・運営委員さんと一緒に

労働組合から見た職員の状況（研究フォーラム職員の仕事・2018年度中間の報告） （報告：地域と協同の研究センター事務局 大島三津夫）

研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会では、2018年度生協の労働組合の皆さんから、感じていることを聞かせていただいています。コープあいち・コープぎふのお話の一部をご紹介します。

5月10日コープあいち労組に聞く

書記長 野々山大輔さん

職員のくらしから

「協同組合の職場で協同を考える」というテーマで、地域と協同の研究センター理事会で報告しました。その報告の2週間くらい前に「女性と子どもの貧困」というシンポジウムがあって、生協自体は子育てに関連して、それで大きくなってきた生協だから、貧困という事実は非常に問題ではないかという話がありました。

私たちの職場でも今その問題はあると認識しています。今の職員のダブルワークはよく聞く話です。先日私が聞いた方は、「子どもは恥ずかしくない程度に育てたい」「大学には行かせたい」

「大学には3人とも奨学金で行き、塾に入れるのにもお金を借りた」と言ってみえました。福祉の現場ではダブルワークをしていて、夜は飲食店で働いているという方がいました。しかし、そのことを賃上げに結び付けようとか、そういうことはなく、職場では生活の事はあまり話されないようです。

悩んでいるのは、労働組合の脱退です。理由は労組費や「加入してもしていなくても労働条件が変わらないなら、入らない方が得」という理由です。協同が必要な職場で、くらしの厳しさから労働者同士の協同の難しさや困難さがおきています。また、奨学金の返済をしている若手が増えているという印象も受けています。奨学金の返済をしている若手が、その返済がきつくと、労組を辞めるということもあります。月額3万から5万円返しているということです。それでも少ない方で、40代まで20数年返し続けるという方もいます。結婚なんてとんでもない状況で、手取りで20万円という中で奨学金をこの金額で返していたら大変な状況です。

一人暮らしで家賃を払って、奨学金を返していたら暮らせない、そういう人が増えています。

働きがいについて

新人で入協してすぐ辞める人は減ってきているようですが、翌年に辞める人は1人～2人います。理由は「仕事が大変、30才、40才になって、いつ配達に戻されるとか考えると将来性が見えない」ということを言われていました。今年は、福祉の職場の採用が無く、できなかったということです。今の福祉の現場はベテランが多くて若手が少なく、若い職員がいてくれないと今後がつかれません。賃金の問題が大きいような気がします。

7月30日コープぎふ労組に聞く

委員長 大野恭道さん

働く実態・生活実感アンケートから

定時職員は700人位いてユニオン・ショップで定時職員は100%労組員です。正規職員は300人くらいいます。オープン・ショップで、7割～8割が労組員です。

働く実態アンケートでは、仕事や生協運動について「展望がない」との回答している割合が半数で、「展望がある」が減少しています。また「やりがい」を「感じている」「それなりに感じている」78%（昨年74.8%）で昨年より増え、「やりがい」を「感じない」は5.1%（昨年8.1%）で昨年より減っています。この回答をどのように受け止めればいいのかと思います。「組合員のために」と取り組み、その喜びがこの数字になっているのではないかと思います。

また5年後も生協で働くかという問いには、「思う」が74.8%（昨年70.0%）で、「思わない」が25.2%でした。「思わない」の理由でトップは「定年だから」で、現在の職員の年齢構成を反映した結果となっています。

生活実感アンケートでは、一方が正規の共働き（68.7%）世帯が多い中、生活は苦しい・やや苦しいが半数（56.5%）を超え、昨年より微増で生活実態の厳しさが続いています。

労組員の声から

女性職員が出産して復帰する際、どんな職種があるのか不安という声を聞きます。復職の際の処遇について困っていることは相談電話がかかってきます。また、職場運営で困っていることも相談を受けています。上司も忙しく、コミュニケーション不足や、考え方が伝っていなかったりと余裕がありません。

人手不足は様々な理由で店舗、共同購入、福祉で起きています。採用ができなければ、若手に引き継ぎができず、生協の将来にも影響します。定年後も働く意思のある職員がこれから多くなります。今は職種が限られています、あいちのように広げることを理事会とも話し合っています。

世話人会から

「職員の仕事を考える」世話人会のメンバーからは「生協をよくしたいという思いは、理事会も労働組合おなじなので、どんどん発信していくことが大切では。」との発言もありました。

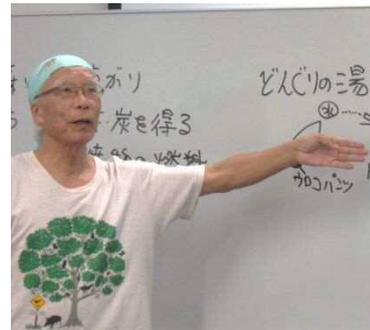
豪雨・洪水・土砂災害・猛暑…

【研究センター環境フォーラム報告】

持続可能な地域における「森」の役割・機能を考え合うフォーラム

～森の土壌破壊メカニズムも知る～

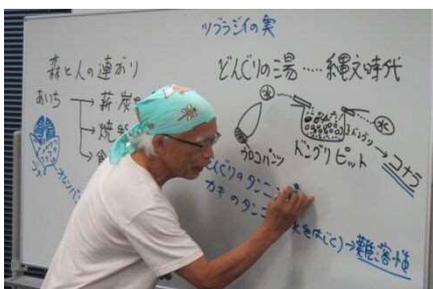
研究フォーラム「環境」世話人会では「持続可能なエネルギー」について、この間フィールドワークや学習、議論をすすめてきました。その一環として、「森の役割・機能を考え合うフォーラム」を9月26日（水）、「ウインクあいち（愛知産業労働センター・名古屋駅前）」にて開催しました。講師に「コープあいち『ほこちゃんの森あるき』の全体監修に協力いただいた「北岡明彦氏（きたおか・あきひこ）」をお招きし、90分のお話と参加者との懇談で「森の役割と機能」に接近しました。その概要を紹介します。



北岡明彦 氏（写真、フォーラム当日）

昭和29年2月に名古屋市熱田区で生まれた時から昆虫少年。高校時代から植物成年に変身したのち成長が止まり、今も自然大好き人間のまま。日本の各地を巡りながら自然を満喫する一方、森林の素晴らしさをPRする活動に慢進している。（※プロフィールは「ほこちゃんの森あるき（生活協同組合コープあいち）」より）

北岡先生のお話



「炭づくりや焼き物の燃料としての森」「木材を育てる（産業としての）森」。「水平分布—北海道と沖縄の違い」と「垂直分布—高度に応じた違い」。垂直分布＝「常緑広葉樹林（標高500mまで—シイやカシ）→「落葉広葉樹林（同800m以上—ブナやミズナラ）→「亜寒帯林・針葉樹林」→「高木限界（ハイマツやお花畑）」と標高によって樹林が変わる。

「天然林」と「人工林」。「天然林」は人類が地球に出現する以前から存在する森林。人工林は産業のために人がつくりだした森林。その、中間が里山林。

第二次大戦後、国策として植林を推進。高度経済成長（住宅需要）で木材の需要は高まったが、戦後の植林では育ちきっておらず「外材を輸入」。戦後73年、植林された森の管理が放置されだした。

植林後、間伐の手を加えられない森林。太陽の日差しが届かず、地表の植物は育たない。そして、雨が降れば枝葉をつたい3倍の雨粒となって15mの高さから地表に落ちて土壌を削り、大きな流れとなり土壌を侵食。土壌流出の仕組みである。適切な間伐で太陽の光が届き地表の植物が育ち、土壌も守られる。森の公的機能は、①水源涵養機能と洪水抑制機能（森は緑のダム）、②山地災害防止機能、③生態系維持機能、④地球温暖化防止機能、⑤保健休養機能・環境教育機能・環境緩和機能…。

【今後採るべき対策】①温暖化ガスの発生を極力抑えるため、無駄なエネルギーを使わない。②人工林の間伐を促進するとともに、将来的には採算の合わない人工林を針広混交林または天然林に改変する。

<懇談>

- 都市・街に暮らす人々が「森」と接する機会が閉ざされている状態で持続可能なくらしを送るための努力は
- 間伐を待ちくたびれた森
- 地域、下流域、町を守る仕組みを「協同」

- で作る必要がるが、それぞれのコンセンサス作りが課題である。
- 市町村が森を守り立て直す「長期計画」を作ることが大事。



森とともにくらししてきた人類が、森の機能をしっかり受け止め、森の仕組みを知り、上手に活用することが大事。森の存在（持続性）があって初めて利用を考えたい。台風24号で「まち」の街路樹も南面が紅葉を待たず枯れ落ちています。2018年の紅葉に触れながら、自然に畏怖の念を抱き共生し、持続可能性を考え合いたいものです。

※先生は2日間の講義を90分のお話にまとめていただき、それをA4判1頁で報告。抜けている点をお詫びします。
報告：研究センター事務局・渡辺 勝弘（わたなべ・かつひろ）

情報クリップ



| メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所 | 目次・主な内容 | 発行年月 半 定価 税別 |
|---|--|--|
| <p>▶ 核兵器廃絶に向けて 一人ひとりが 継いでゆく思い</p> <hr/> <p>NAVI</p> <p>2018. 10 No. 799</p> <p>日本生活協同組合連合会</p> | <p>特集 核兵器廃絶に向けて一人ひとりが継いでゆく思い</p> <p><コープのある風景> コープあおもり <今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見> コープこうべ 梶田日登美さん <想いをかたちにコープ商品> CO・OPナチュラルケアシリーズ <生協大好きママ コブ山さんの 教えて! CO・OP商品> CO・OP調理済みおでん <ZOOM IN 生協の店舗づくり> コープかがわ コープ栗林 <私の本ナビ> 一宮生協 <うちの生協にはこんな人がいます> ララコープ <日本全国 宅配現場におじゃまします!> コープ九州事業連合 第1回配達応対コンテスト九州大会 <いつでもどこでも 地域とくらしを支えます> 福井県民生協 <☆突撃☆あなたの町の組合員活動> コープみらい <明日のくらしささえあうCO・OP共済> いわて生協 <この人に聴きたい> イラストレーターなど みうらじゅんさん <ほっと navi> エフコープ 日本生協連</p> | <p>2018 年 10 月 A 4 判 36 頁 360 円</p> |
| <p>▶ 生協の店舗事業の 運営と役割を考える</p> <hr/> <p>生協運営資料</p> <p>2018. 9 No. 303</p> <p>日本生活協同組合連合会</p> | <p>巻頭インタビュー●わが生協、かくありがたい! 組合員に近い現場から運営を考え、職員が尊重され、 やりがいを感じる組織を目指す コープぎふ●代表理事 理事長 大坪光樹氏</p> <p>特集 生協の店舗事業の運営と役割を考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 黒字化の背景にあるのは、繁盛店を意識した 商品仕入れとパート職員が生き生きと働く売り場 おおさかパルコープ●代表理事 副理事長 所 清司氏 常務理事 店舗支援本部 本部長 花房義彦氏 先進事例の視察と学びを現場職員まで貫徹 能動的な店舗政策でさらなる発展を目指す コープぐんま●代表理事 専務理事 大貫晴雄氏 店舗事業部 部長 兼 コープデリ連合会 北関東 SM 店舗運営部 ぐんま地区長 田口昭博氏 積極的な改装と品揃えの見直しで供給を改善 購買と地域の拠点としての役割を發揮する コープこうべ●常務理事 榎本裕一氏 生協とローカルチェーンの違いどこにあるのか 売場の果たすべき役割と好調な店舗の要因を考える 店舗事業情報支援アドバイザー●中谷誠一氏 <p>●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第 27 回 宅配事業の中で育ってきたCO・OP共済が 生協の総合力發揮をリードする コープ共済連●共済推進本部 推進企画部 部長 津田幸弘氏</p> <p>特別企画「人材育成と職場改革、そしてリーダーシップ」 ～生協に求められるこれからのマネジメント～ 学習院大学●経済学部教授 兼 (一社) 経営研究所 代表理事 内野 崇氏</p> | <p>2018 年 9 月 B 5 判 80 頁 870 円 (送料別)</p> |

| メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所 | 目次・主な内容 | 発行年月 判型 定価 (税別) |
|--|--|---|
| <p>月刊 J A</p> <p>2018. 10 vol. 764</p> <p>全国農業協同組合中央会</p> | <p>スゴイ農業、スゴイ J A J A 自己改革の現場から 将来を見越して改革に取り組み 次世代への対応と地域の農業振興を目指す — J A いわみざわ (北海道) の農業振興の取り組み 高橋良晴</p> <p>トピック 「 J A 旬みつけ! 」アプリ活用最前線! — J A グリーン大阪の取り組み J A 全中 広報部</p> <p>きずな春秋 — 協同のこころ — 童門冬二 私のオピニオン 高田 明 海外だより [D. C. 通信] 連載 89 間近に迫る 11 月のアメリカ議会選挙 吉澤龍一郎 手のひらに乗る幸せ 自然をコントロールしない、程よいバランスを保ちながらの野菜作り 河瀬直美 J A トップインタビュー 農業の復旧・復興を着実に 菅野孝志 (福島県 J A ふくしま未来 代表理事組合長) 展望 J A の進むべき道 「働き方改革」への対応 石堂真弘 (J A 全中常務理事)</p> <p>平成 29 年度 J A 経営マスターコース優秀論文紹介 修了論文大賞 畜産を起点とした地域振興への提言 川添邦宏 (佐賀県 J A からつ)</p> | <p>2018 年 10 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p> |
| <p>▶ 賀川豊彦を 現代に語り継ぐ — 賀川豊彦生誕 130 周年記念事業</p> <p>生活協同組合研究</p> <p>2018. 10 vol. 513</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p> | <p>■ 巻頭言 持続可能な開発を目指して 蓮見音彦</p> <p>▶ 特集 賀川豊彦を現代に語り継ぐ—賀川豊彦生誕 130 周年記念事業 賀川豊彦 いまいずこ 山折哲雄 死線を超えて我は行く 鳥飼慶陽 協同組合を軸とした賀川豊彦の思想と実践—素描 伊丹謙太郎 賀川ハル—女性のライフキャリアプランからみるハルの生き方— 岩田三枝子 賀川豊彦—希望の経済 松野尾 裕</p> <p>コラム 1 「カガワ協同組合スクーリング」について 杉浦秀典</p> <p>コラム 2 賀川豊彦・ハルの生涯と活動 (年表) 菅谷明良</p> <p>コラム 3 先人たちの思いを受け継ぎ持続可能な地域社会づくりへ 青竹 豊</p> <p>■ 海外情報 第 13 回国際サードセクター学会 (I S T R) 会議 参加報告 中村由香</p> <p>■ 時々再録 スマホを以て、スマホを制す 白水忠隆</p> <p>■ 研究情報 「協同組合関係研究組織の交流会」創設と近況 鈴木 岳</p> <p>■ 本誌特集を読んで (2018・8) 藤方正浩・山田泰蔵</p> <p>● 公開研究会「生協は若年層とどう向き合うか」(11/22・京都) ● 公開研究会「大学生の読書を考える」(11/30・東京) ● 公開研究会「韓国の生協」(12/12・東京)</p> | <p>2018 年 10 月 B 5 判 76 頁</p> |

| メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所 | 目次・主な内容 | 発行年月 判型 定価 税別 |
|--|--|--|
| <p>▶ドイツ文化としての ライプハイゼンの遺産 —生誕 200 年に寄せて—</p> <hr/> <p>文化連情報</p> <p>2018. 10 No. 486</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p> | <p>農協組合長インタビュー (50) 組合員への対応は常に早く 奈良場義夫</p> <p>医薬品交渉の厳しさを、協同の力で突破するために 伊藤幸夫</p> <p>院長リレーインタビュー (305) やっぱり屋島に行こう」の病院づくり 安藤健夫</p> <p>ドイツ文化としてのライプハイゼンの遺産—生誕 200 周年に寄せて— 村岡範男</p> <p>第 89 回関東福島厚生連医療材料共同購入委員会</p> <p>第 40 回関東福島厚生連医療材料共同購入対策会議 小松真之助</p> <p>初期研修医は海外研修で何を学べるか? 蓮見純平</p> <p>多様な福祉レジャーと海外人材 (7)</p> <p>台湾における福祉国家への道のりと介護保険 安里和晃</p> <p>韓国農業の実相—日本との比較を通じて (26)</p> <p>農協中央会の事業再編と地域農協 品川 優</p> <p>臨床倫理メディエーション (27)</p> <p>在宅医療の終末期をめぐる臨床倫理 (2) 中西淑美</p> <p>J A はが野の福祉事業の新展開</p> <p>デイサービスセンターすこやか山前と二宮を訪ねて 小磯 明</p> <p>海南病院オープンホスピタルに行ってきました! 関根健太郎</p> <p>第 3 回西日本地区厚生連医療材料共同購入委員会開催 因幡浩二</p> <p>岡田玲一郎の间歇言 (150)</p> <p>一生、面倒をみる医療システム その中でのホームヘルスケア 岡田玲一郎</p> <p>野の風●追憶～故郷の楽曲とともに 久米千曲</p> <p>デンマーク&世界の地域居住 (113)</p> <p>地域に働きかけるリハビリ専門職 (愛知県春日井市、東海記念病院): 2 松岡洋子</p> <p>熱帯の自然誌 (31) 現在の服装 安間繁樹</p> <p>イギリスの病院 (3)</p> <p>ガイズ&聖トーマス病院 (2) 患者中心の医療体制の構築 小磯 明</p> <p>●佐久総合病院</p> <p>「アルマ・アタ宣言 40 周年記念イベント in Saku」開催のお知らせ</p> <p>◆第 5 回厚生連放射線科医療機器ライフサイクルコスト会議開催のお知らせ</p> <p>◆平成 30 年度厚生連院内感染予防対策研修会開催のお知らせ (基礎)</p> <p>◆第 21 回厚生連医療経営を考える研究会開催のお知らせ</p> <p>◆第 22 回厚生連病院と単協をつなぐ医療・福祉研究会開催のお知らせ</p> <p>□書籍紹介 ドイツ農村信用組合の成立</p> <p>▶線路は続く (127)</p> <p>野辺山 S L ランド さよなら高原列車／西出健史</p> <p>▶最近みた映画</p> <p>皇帝ペンギン ただいま／菅原育子</p> | <p>2018 年 10 月 B 5 判 80 頁 文化連情報 編集部 03-3370- 2529 *注</p> |

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています (主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

日本国憲法公布72周年記念

2018ぎふ平和のつどい

期 日 2018年11月10日(土) 13:30~16:00 (開場12:30)
 会 場 岐阜市民会館大ホール(岐阜市美江寺町2-6 TEL058-262-8111)
 入場料 800円(学生・障がいのある方は無料) *手話通訳あり

記念講演: **「9条を守るのは誰か～問われているのは私たち」**

青井未帆さん(学習院大学教授)・憲法学)

自衛隊を憲法に明記しても「何も変わらない」というのは本当か。
 新進気鋭の憲法学者「青井未帆さん」といっしょに考えてみませんか…

市民参加ステージ(群読)

『チロヌップのきつね』と「日本国憲法前文」

ロビー展示

「ぎふ平和のつどい」の歩み展

主 催 2018ぎふ平和のつどい実行委員会(実行委員長 多田滉)
 後 援 岐阜市・岐阜市教育委員会
 問合せ先 090-2688-5284(青木眞理)、090-8135-9452(魚次龍雄)

名古屋市守山区生涯学習センター 主催
 公開講座

古代尾張氏とヤマト政権

歴史のロマン
 新発見!

講演:『古代尾張氏とヤマト政権 - 「東夷圏」のなかの日本古代史物語 -』の著者

野原 敏雄 氏(中京大学名誉教授・地域と協同の研究センター顧問)

日時: 2018年11月8日(木) 会場 13時00分、開演 13時30分、終了 15時30分
 会場: 守山区生涯学習センター本館3階視聴覚室(名鉄瀬戸線守山自衛隊前駅下車徒歩5分)
 会費: 無料、50席 (先着順ですので早めにお越しください)

古代中国の歴史書や朝鮮半島の国々の出来事から大きな影響を受けた「東夷圏」のなかの日本古代史物語。この地が尾張地方と称されているが、謎に満ちた「古代尾張氏」。熱田神宮に伝わる神話伝承に始まり、「4世紀前後の古代史」を最新の発掘調査で記紀の検証が大きく進んでいます。「海部族」と組んでの濃尾平野から奈良ヤマト中央政権とのただならぬ関係など、その集大成をまとめられ「古代尾張氏とヤマト政権」として出版されました。

野原先生は今年90歳、ぜひ著者自身が語る悠久の歴史秘話を聴いて、今注目の古代史ロマンに浸ってください。

企画: 志段味の自然と歴史に親しむ会 世話人代表・地域と協同の研究センター 理事 野田輝己

地域と協同の研究センター11月の予定

| | | | |
|------|------------------------------------|------|----------------------|
| 1・木 | 「協同組合間協同」相談会 | 16・金 | 第2回「市民が協働を学ぶ講座」 |
| 6・火 | 三重地域懇談会 | 17・土 | 第5回共同購入事業マスターコース |
| 8・木 | 三河地域懇談会「豊川海軍工廠平和公園等見学会」 | 18・日 | 第75回「生協の(未来の)あり方研究会」 |
| 9・金 | 第6回「協同の未来塾」 | 20・火 | 第6回常任理事会 |
| 12・月 | 「市民の講座」運営委員会 | 27・火 | 岐阜地域懇談会 |
| 14・水 | 研究フォーラム環境フィールドワーク「養豚によるバイオガス発電を学ぶ」 | 30・金 | 第3回「市民が協働を学ぶ講座」 |

地域と協同の研究センターNEWS170号

発行日2018年10月25日定価200円(税・送料込み)

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>